「老後への備えは出来るだけ早く」

そもそも老後とはいつからでしょうか？定年後から始まるのか、公的年金を受給し始めてからなのか、人によっても考えは色々あるようですが、今の所６５歳からという意見が多いようです。雇用も６５歳までを担保する方向であり、年金受給も現在受給年齢を原則６５歳としており、６５歳というのは大きな分岐点と言えるでしょう。それでは６５歳までに具体的にどのような準備を行えばよいのでしょうか。仮に６５歳まで働いて６５歳から公的年金を普通に受給する場合について、平均的には収入は半減し、退職金・貯蓄を取り崩していく必要があります。６５歳の男性でその平均余命（その年齢の方が生きるであろう期間、平均寿命とは０歳児が生きるであろう期間のため、それぞれ違ってきます。）は約１８年、同女性では約２３年とまだ２０年前後生活していく必要がある訳です。ただ、６５歳直前で備えようとしても無理がありますので、仮に２０年分を準備するのであれば少なくとも２０年前から準備が必要なのではないでしょうか？キーワードは

１．計画的な積立

個人年金を始める、小規模共済・４０１Ｋを始める

通常の貯蓄の充実→年間不足資金５０万円と考えれば最低必要額１千万円

２．生活レベルを抑える

６５歳までに長期の支払いを終わらせる

ｅｘ．生命保険料、住宅ローン、アパート→持家への転換

３．健康管理の徹底

医療保障の充実・見直し

以上を組み合わせ、ご自身に合ったプランを今の内からお考えいただき、そのプランに沿って準備を始めてください。

ＦＰ委員会　田原　智延